

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「土砂災害から命を守る」

神奈川県 鎌倉市立西鎌倉小学校 5年 坪谷 禮

今年に入ってから、土砂災害のニュースを目にする事が多くなりました。今まで自分の中では、土砂災害は大雨の影響で起こると思っていました。しかし、元旦に起きた能登半島地震で、地震でも土砂災害のひ害が出ることを知りました。さらに調べてみると、火山での土石流や、なだれも原因に含まれる事が分かりました。

私は以前北海道に住んでいました。住んでいた地域には崩れる山などはありませんでした。祖父母の家も関東平野の平らな所にあり、土砂災害は私にとって無えんの存在でした。土砂災害のニュースを見る度に「どうしてあんな危険な場所に住んでいるのだろう」と不思議に思っていました。昨年、父の仕事の都合で、神奈川県の鎌倉市に引っこしてきました。そこで私はおどろく景色を見ることになります。なんと、家の前の急な山の上に家が1けん建っているのです。もしこれが崩れてきたら、とぞっとしました。この景色を目の当たりにし、初めて土砂災害の危険性を身にしみて感じました。また、引っ越した際に配布された市の防災ブックには、たくさんの土砂災害危険か所が記さいされていて、これにも大変びっくりした事を、今でもせん明に覚えています。その数の多さに私は呆然としました。実際に市内を歩いてみると、「なぜこんな所に家が建っているのだろう。ここがひなん所で、本当に大丈夫なんだろうか。」と不安な気持ちでいっぱいになりました。近年では地球温暖化により、強い台風が多くなったり、線状降水帯など、雨の降り方もずいぶん変わってきてしまいました。昔は住みやすかったであろう土地でも、もしかしたら今では危険か所に分類されている土地になってしまっているかもしれないと思いました。

土砂災害から命を守る為には、住みなれた土地でも、離れる勇氣も必要になっていくのではないかと思います。なぜなら命より大切なものは無いからです。地域の文化や伝統を残す為に住み続けるのであれば、それも違うのではないかと考えます。これからは少子高齢化がどんどん加速していき、2020年から2050年の30年の間に、約2千万人も人口が減少する予測が立てられています。これにより、日本全国にある危険か所を整備する人材もお金も不足するのは目に見えています。少し強引かもしれませんが、ばらばらで危険な土地に住むより、安全な所にまとまって住む方が、少ない防止対策で命を守る事が可能になるのではないかと思います。

この夏休みの間にも、大きな地震があったり、長く雨が続く事が何度もありました。日本各地でたくさんの土砂災害がありました。ひ害にあった方達もたくさんいたと思います。その度に悲しく大変な思いをする人達がいなくなるような防災対策があったら良いと思いました。難しい事もたくさんあるとは思いますが、土砂災害で命を落とす事が無い未来になる事を願っています。今、私に出来る事は、自分が災害時どこに逃げたら良いかをきちんとはあくしておく事だと思います。私は生きうめになって死んでしまうのは絶対に嫌です。市から配布された防災ブックの危険か所を見て、身近な人にも伝えていく事が、土砂災害から命を守る第一歩なのだと思います。